

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	作業療法学分野・ 作業活動分析学領域
学籍番号		院生氏名	陣内 大輔
通学キャンパス			
論文題目	課題の複雑性と注意機能が運動準備電位に与える影響 －難易度の異なる二重課題検査および注意機能検査の関係－		
審査結果 (枠で囲む)	<input checked="" type="checkbox"/> 合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>本研究は、随意運動に先行して運動前野に発現する運動準備電位(MRCP)を指標として、その潜時や振幅が課題の難易度により変化するかどうかを検討し、注意機能と MRCP との関連性を解明することを目的としている。</p> <p>研究は、当大学の倫理審査委員会(16-Io-198)の承認を得て実施していた。</p> <p>右利き健常若年成人22名(男性22名,女性7名,平均年齢20.8歳)を被検者として、運動単一課題(右手第2指伸展)、簡単二重課題(右手第2指伸展と画面呈示された数字の内”7”の回数を記憶)および複雑二重課題(右手第2指伸展と画面呈示された数字の内”3”と”7”の回数を記憶)を行い、その際の運動準備電位を左右頭頂部(国際10-20法でC3とC4)から測定した。その結果、課題時の注意記憶正答率(指定された数字の出現回数)と運動準備電位の振幅や潜時に負の相関(課題が複雑になるにつれて正答率が低下し、運動準備電位の振幅が低下し潜時が延長する)を認めた。この事より、運動準備電位を指標として、リハビリテーション対象者の注意機能の変化や活動に対する意欲などの判別の評価が行える可能性が示唆された。</p> <p>本研究の新奇性は、注意機能を生理学的見地より客観的に評価できる可能性を示した点で、リハビリテーションに対する対象者の集中度などを知る一方法になり得る点で重要な研究と思われる。</p> <p>2. 審査経過について</p> <p>審査に先立ち甲種の受験資格ならびに副論文の審査を行い必要条件を満たしていることを確認した。審査会は1回(2019年12月13日)実施し、研究内容の妥当性、研究の限界および結果と考察の整合性について質疑応答を行い、提出された論文内容に問題ないことを確認した。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>口頭試問においては、質問に対して適切に研究内容について回答でき、この分野の知識を十分に得ていることが確認できた。また、本研究の限界も熟知しており、今後の研究発展が望まれる応答であった。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	後藤 純信	
	副 査	丸山 仁司	
	副 査	阿部 晶子	